

香港のアイコン的な都市景観を、さまざまな視点から探る建築展

大胆な外観の建築は、香港や東京のような現代の進歩的な都市の顕著な特徴です。そして、きらびやかな高層ビルや特徴的な都市景観の背後には、活力あふれる都市環境で働き、暮らす人々の生活を豊かにする、建築デザインと高度な工学技術の物語があります。

東京の「香港ウィーク」では、「摩天楼だけじゃない ～建築から探る香港～」と題した展示が開かれ、建築デザインと質の高い都市生活の関係をひも解きます。

香港建築士学会 (HKIA) の主催で、11月1日から11日までGINZA SIX 6階の銀座 蔦屋書店を会場に開催されるこの企画展では、さまざまな建築模型にビデオ、マルチメディア展示を見ることができます。

「香港にあるのは高層ビルだけではないのです」とHKIA名誉幹事の朱海山 (ポール・チュウ) 教授は力説します。「香港の若手建築家が、その16の展示作品を通じて香港の違った一面を紹介する本展では、香港が高層ビル以外に提供できるのは何かという問いを見る人に投げかけます。広大な自然公園でしょうか？今も変わらぬ香港独特の暮らしでしょうか？ローカルな文化、それとも集会的な記憶でしょうか？」

16の展示作品は、クリエイティブハブとしての建築、社会的な手段としての建築、そして一時性の建造物としての建築という3つの主要カテゴリーに分類されています。また、マルチメディア展示では、建築デザインの背後にある考えを探ります。

「高層都市という従来の上空からの見方から離れ、本展には香港をさまざまな尺度で探索する作品を集めました」と朱教授は述べています。「PMQやマテリアル・キュージージュといったプロジェクトから見て取れるように、展示作品のテーマは香港全体に関わる戦略から建材まで幅広く、ブルーハウス建築群と荔枝窩 (ライチウオー) 村のプロジェクトは、香港のさまざまな生活様式を描写しています。」

日本建築家協会が後援する同展では、「香港と日本の若手建築家にとっての機会と課題」について議論するフォーラムも開かれます (11月10日)。このフォーラムは、香港と日本双方の建築家、学者、一般市民の間で、建築や文化についての知的対話を促すことを目指すものです。

「このフォーラムでは、香港と日本の若手建築家が建築の伝統や文化的アイデンティティ、持続可能性といったテーマについて発表、議論し、分析を行う予定です」と朱教授は話しました。

世界で最も高層ビルが多い都市として知られる香港には150メートルを超える高

さの建物が300以上あり、香港で最も高いビルは高さ484メートルのインターナショナル・コマース・センターです。同時に、このような現代の素晴らしい建築物とアイコニックな建築遺産が並び立つ環境を人々が楽しむことができるよう、香港政府は歴史的建造物の再生を奨励しています。

先見性のある都市計画や創造的才能、また建築家たちによる卓越したデザインの追求は、その結果に表れています。「摩天楼だけじゃない ～建築から探る香港～」展は、香港の建築業界の専門性を国際的な舞台上でアピールする機会です。

高層ビルの数で世界一：

<http://www.skyscrapercenter.com/cities?list=buildings-150>

建築展ウェブサイト

http://www.hkia.net/tokyo2018/index_jp.html

1. 「ビバ・ブルーハウス ～遺産そしてコミュニティの修復」
謝錦榮（ケネス・ツェー）



2. 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018 「香港ハウス」
葉晉亨、呉鎮麟（オットー・ウン）、姜榮騰（ハンフリー・ケン）



3. 「建築家のいない建築 ～村での自立・ 持続可能な生活様式」
（ライチウォー村でのプロジェクト）
劉永業（トミー・ラウ）、葉淑欣、呂嘉兒



4. 「マテリアル・キュージーヌ」

葉健倫 (アンガス・イップ)、蔡偉權 (クエン・チョイ)、鄧知蘅 (ジャビアン・タン)



5. 「超高層ビルのバックボーン」

龔翊豪（アルヴィン・カン）、羅晉偉（ジャスティン・ロー）、黄瑋皓（ザカリー・ウォン）

